

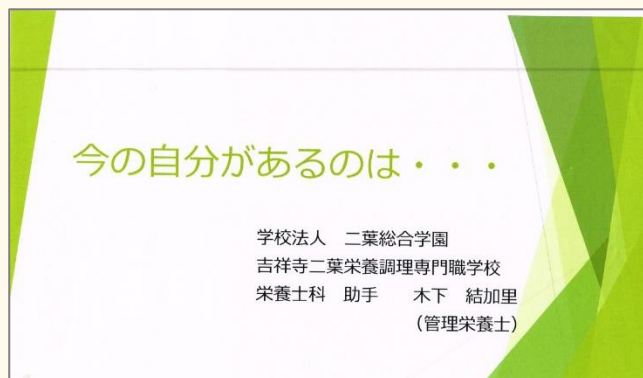
今の自分があるのは・・・

吉祥寺二葉栄養調理専門職学校から参りました
管理栄養士の木下結加里と申します。

私は現在、専門学校で教員の補助や調理実習等の
準備を行う助手という仕事をしています。

私は、吉祥寺二葉栄養調理専門職学校の管理栄養
士科を卒業しています。

現在は後輩の学生たちの育成に日々努めていま
す。



1. これまでの私

このような日々を現在は送っていますが、私は
チャレンジスクールの卒業生でもあります。私は
小学校3年生頃から学校に行きづらくなり、残り
の小学校生活は保健室で過ごしました。当時の私
は、周りに迷惑をかけている事は理解していま
したが、同時に自分の事を分かってもらえない他の
同年代の子たちができている事ができない劣等感を感じていました。



中学校では特別支援学級に進級しました。

最初の転機となったのは、中学校2年生の時に異動してきた先生により週に1度のペースで、特別支援学級がある教室で調理実習を行うようになったことだと思います。

私が料理を好きだったということもありますが、その調理実習で自分が考えたレシピが採用され、実際に学校で作った事は自分にも得意なことがあると自信に繋がりました。

この経験から週に何日かは中学校に行くようになりました。

そんな中でチャレンジスクールに進学しようと思った理由が3点あります。

1. 学力考査や内申書がなくても入試が受けられる。
2. 三部制・定時制・単位制で自分に合った時間に学校に通える。
3. 自分と同じ不登校を経験している人が多く進学している。

この3点です。

その上で、稔ヶ丘高等学校を選択した理由は、落ち着いた校風と基礎学力向上に力をいれていたところ
です。しかし、この学校に通いたいと強く思ったきっかけは中学3年生の時に訪れた稔ヶ丘高等学校の
文化祭で生徒が生き生きと楽しそうに模擬店や催物を行っているのを見て、私もコレがしたいと思っ
たからなのを今でも鮮明に覚えています。

その気持ちを抱えながら、私は稔ヶ丘高等学校に入学しました。

そして、高校1年生、2年生と文化祭の実行委員を行うことができ、やりたいことを行う楽しさを経
験しました。

しかし、1年生の秋ごろから休みがちになってしまい。半年ほど高校に通わない時期もありました。それでも高校は卒業したいという思いがあり、2年生からまた高校に通うようになりました。その後は、欠席する日もありましたが一週間全く学校に行けないという日はなくなりました。

また私は4年間稔ヶ丘高等学校に在籍しておりましたので、文化祭は4回行っていきます。

自分たちで考えたメニューを販売した年や喫茶店などを行った年もありました。

文化祭を行う中での学びは、今の私にとってもかけがえのない物です。

同年代の人たちと協力し一つの事を行う。自分たちで作った物を販売する。知らない人に接客を行ったり、準備を行うのも、人と話すのが苦手であった当時の私からすればとても大変な事でした。だからこそ準備が終わった時や文化祭が終わった時の達成感は、私でもできるという自信に繋がりました。

学校に通えるようになった理由として考えられるのは、稔ヶ丘高等学校の自由に自分の興味のある教科を選び時間割を組めることや、自分のクラスの教室が決められていないなどの自由なところが私と相性が良かったのだと思います。

そして、私と同じように不登校を経験した生徒が多く、誰もが悩みをかかえ苦難を抱えていると知り、困難だと感じていたのが自分一人だけではないと思えたからだと思います。

また、稔ヶ丘高等学校の方針には「自他のチャレンジを尊重する」というものがあります。これにより、自分のペースで勉学も交友関係を進めることができ、卒業年次も3年生であるのか4年生であるのか自分自身で選択することができたのも良かったのだと思います。

高校からの進学を考えたとき、始めは大学に進学したいと思っていました。

しかし、自分が働く姿を思い浮かべた時にただ大学に進学しただけでは自分が仕事をしている姿を想像できない事に気が付きました。そこで、資格が取れる分野に進みたいと考え直し、子供の頃から好きだった料理や食に携われる職業として「管理栄養士」の道に進むことを決意しました。

この時点では、管理栄養士資格が取得できる大学に進学するか専門学校に進学するか迷いがありました。私にとって大学の魅力は稔ヶ丘高等学校のように自分で好きに時間割を組むことができ、クラス等の密な関わり合いがないところだと思っていました。

しかし、苦手であった毎日決められた時間に学校に通うことを経験しないまま働けるのかと不安もありました。そこで苦手だからこそ、社会に出る前の最後の学びの場として苦手な事にも挑戦したいと考え「吉祥寺二葉栄養調理専門職学校」に入学しました。

専門学校での日々は専門性が高く大変だなと感じることも多くありましたが、社会にでても困らないだけの「知識」と「技術」と「チームワーク」が学べたと実感しています。

2. これまでの経験から

これまでの経験から、私が困難を乗り越えられたのは「中学校の特別支援学級」や「高校のチャレンジスクール」や「専門学校」といった、自分がいても良いと思え受け入れてくれる「居場所」と出会えたこと、そしてその場所で私を一人の人として真剣に向き合ってくださった先生方のおかげだと思っています。

これまでの経験から

私が困難を乗り越えられたのは

- 自分がいてもよいと思え、受け入れてくれる「居場所」と出会えたこと
- 一人の人として真剣に向き合ってくださった先生方のおかげ

今思えば私にとって「居場所」とは、一人の人として向き合ってくれる人、真剣に話を聞いてくれる人、ふつうに接してくれる人がいる場所でした。

これは多くの人がふつうに思っていることなのかもしれませんが、一度「居場所」がないことに気づいてしまうと社会と分断され二度と関われないのではないかという不安がございます。誰しも「居場所」は必要なものだと私は考えています。

3. これまでの経験から

これからの学校に期待すること

私がこれからの学校に期待することは今の児童・生徒の声に耳を傾け、変わっていきける柔軟性をもち続けていただくことです。稔ヶ丘高等学校は私が卒業してから、授業の選択がより自由になりました。変わった直後は戸惑いもあったと思いますが、卒業生の私から見ても今の稔ヶ丘高等学校は誇れる素敵な高校です。

そして、私が料理という好きな事を続けられたように多くの子供たちが自分の「好き」を見つけられる「居場所」に学校がなっていければ嬉しいです。

また、私は高校に片道 1 時間半以上かけて通学していました。チャレンジスクールは東京 23 区には多くありますが、多摩地域には現在まだありません。令和 7 年度に 1 校目設立予定となっております、さらに 2 校目などチャレンジスクールの選択肢の幅が今後も増えていくことを願っています。

これまでの経験から

これからの学校に期待すること

- 今の児童・生徒の声に耳を傾け、変わっていきける柔軟性をもち続けていただくこと
- チャレンジスクールの選択肢の幅が、今後も増えていくこと

4. 困難を抱えている子供たちへメッセージ

最後に、困難を抱えている子供たちへメッセージを送らせていただきたいと思います。

今、あなたの周りで「悩みごとがあるのでしょ?」「何に困っているの?」と聞かれたり、「一人で悩まないで相談してね」と言われることがあると思います。

私は、急いで無理に相談しなくても良いと思っています。

自分が何に困っていて、本当は何に悩んでいるのか理由は 1 つではなく、色々あり簡単ではないから困難になっているのではないのでしょうか。

ゆっくり自分のペースで、何に困っているのか、何に嫌だと感じているのか考え、自分が話したい時に、話したいと思った人に話してみてください。

もしかしたら、そんな事をして誰にも理解してもらえない、こんな相談をしてどう思われるのだろうと思うかもしれません。

私は、しつかり自分で考えた理由は、全ての人に理解されなくても、必ず理解して受け入れてくれる人があなたの近くにいます。

焦らずゆっくりと自分のペースで進んでいってほしいです。

困難を抱えている子供たちへのメッセージ

